



第176号  
令和7年11月4日  
能代市教育委員会  
学校教育課  
創刊  
昭和42年10月10日  
題字 元能代市教育長 鎌田 宏

### 随想



コロナ禍を乗り越え、  
変わりゆく学校

向能代小学校 教頭

滝沢 治

早いもので、教職について三十年、ついに還暦を迎えてしまいました。思い返すと、これまでいろいろなことがありましたが、何と言っても一番は、コロナ禍です。「理科の実験はなるべくしないように。」「リコーダーの演奏はやめましょう。」など、これまで当たり前でできていたことが急にできなくなり、困ることがたくさんありました。学校行事についても検討を余儀なくされました。

ただ、悪い影響ばかりではなく、よい影響もありました。これまで疑いもしなかったことが、見直されるきっかけともなりました。多くの学校で運動会や学習発表会の方法が見直されました。先生方の出張会議も参集せずに行えるよう

になりました。

以前は、考えもしなかったことです。コロナ禍が、教育界に変化をもたらしたことは、確かです。

最近はその影響か、変化することへの意識の高まりから働きやすい環境へのシフトも進み、働き方改革が進展していると感じます。それは、とてもよいことですが、心配なこともあります。もしかしたら、楽になるからということだけで、変わっていることはないでしょうか。本来、『変えることは、児童生徒にとってよいことか』を考えることが一番のポイントだったはず。学業への配慮がしっかりなされ、働く人にも優しい、そんな学校になったら、この上なく嬉しいことです。

### スクールニュース

今年も笑顔あふれた「風の松原集会」

湊城西小学校  
教頭

大沢 友子

「♪未来にも残そう。この松原の美しさ♪」

「ぼくらの松原ソング」で歌い継がれているように、本校は学区内にある風の松原との関わりを大切にしています。

その中の一大イベントが「風の松原集会」。風の松原をフィールドにして縦割り班でオリエンテーリングを行う活動です。子どもたちも毎年楽しみにしているのですが、相次ぐ熊の出没により、昨年はコースを変更して、

今年は学校を会場に行いました。四年生が総合の時間に調べたことを元に、松原クイズを作成。その他、各班の団結を試す「優勝への意気込みを叫ぶコンテスト」等のポイントにもトライ。風の松原との関わりを通して、友達との絆も深めた西っ子たちでした。



### 輝きの一場面



「笑顔 あいさつ 歌声 日本一」

～体育館に歌声を響かせよう～

令和7年10月4日 二ツ井小学校



能代第一中学校  
教諭 松尾みどり



私が普段学級経営で実践していることを振り返ってみたい。  
①学級開きで、「完璧な人間は誰一人としていない。個性を認め合おう」と伝え、自己開

示をし、私自身が苦手なことも具体的に紹介する。②学級の雰囲気と違和感を抱いたら「クラスアンケート」をとる。そこで出た内容を級長・副級長・クラスリーダーから成る「リーダー会議」で話し合う。③空き教室を見に行き、机と椅子が整頓されていたら電子黒板に「整頓はなまる」と大きく書く。④各学期最低一回は全員と個人面談をする。⑤放課後の黒板にメッセージを残す。これは新採用の頃から続けている。⑥各学期最終日の生活ノ

トに写真付きメッセージを貼る。私の学級経営の理想は「学級の生徒全員を手のひらにのせ、そこから一人もこぼれ落ちないように日々、小さな変化を見逃さないこと」。しかし、これが一筋縄ではいかない。初任校：卒業式当日、入学から約一年間、折り合いが悪かった生徒から「三年間いつも本気で怒ってくれてありがとうございませぬ。」と書かれたメッセージをもらった。二校目、問題を起こして夜中まで指導した生徒と、「三十路会」で再会した。「あの



JFY

推進プロジェクト

能代第二中学校  
教頭 八田 浩彦

本校では今年度、校訓のもとで目指す生徒の姿を具体的にイメージし、「JFY推進プロジェクト」を立ち上げました。二中祭や二中若等の行事にむけた取組はもとより、日常生活のレベルアップにねらいを定め、教育活動全体を貫く教師の役割を意識し、その具体がJFYのどれを、どのように高めることにつながっているかを常に振り返りながら、日々の実践を積み重ねていくところです。

まずは「自主」のJ。よい行動を認め、価値付ける言葉掛けの奨励や、清掃に進んで取り組むため

に生徒の言葉で全校に呼び掛ける集会等を行っています。また、生徒会による主体的な活動を後押しし、生活のきまり等への意識を向上させることなどを通して、自ら考え、判断し、行動する力を高めています。

続いて「不屈」のF。心の支えになる集団づくりを目指し、安心できる学級のイメージを教師と生徒が共有しています。認め合いの場を継続的に設定して所属感や安心感をもたせ、グループエンカウンター等を通して共に高め合う集団を目指し、困難に立ち向かう態度や簡単にあきらめない心を養っています。

そして「友愛」のY。日常の挨拶や声掛け等、当たり前のコミュニケーションの大切さを教師も生徒も意識することで習慣化を図っています。また、ゲストティーチャーによるマナー講座等の実施を通してスキルの向上にも注力し、思い

やりの心をもって互いを尊重する生徒の育成を目指しています。今日も、校内外のあちこちで「JFY」の芽が出ています。協働的に変化を生み出し、未来を創るわが二中。年度末、春の訪れを感じる頃にどのような花が咲くのか楽しみです。



編集後記

ときは本当に迷惑かけました。僕が経営している美容室で先生の髪を切らせてください。」と言われた。私がここまで教師を続けてこられたのはこの2人のやんちゃな男子生徒のおかげ、と言っても過言ではない。ここ二年間の生徒指導の研修から、学級経営は子育てと類似していることに気がかされた。「そのときは分り合えなくてもいつかは思いが通るはず...。」この気持ちを忘れずにいたい。



「先生の嫌いなもの、ウソと目配せです。」と生徒に話したことがあります。その後、一人の生徒が私の所に来て「目配せと目配りって、一字違うだけで意味は全然違いますよね。私は目配りできる人になれるように頑張ります。」と言いました。また、ある教師は社会の授業で、「選挙に行かない理由ではなく、行けない理由はないかな？」と問い掛け、生徒の心に火を点けたそうでした。教師は言葉を扱う仕事です。たった一言で、児童生徒の心を救うこともあり、相手と誤解を招いてしまうこともあり、誤解を招くからこそ、丁寧で想いの溢れる言葉を意識したいものです。いつか「先生から言われたあの言葉で、俺(私)頑張れたんだぞよ!」そんな言葉を聞けたら、それこそ言葉になりませぬ、一つ一つの言葉に熟考を重ね、玉稿を執筆くださった皆様、心より感謝いたします。(Y)